**特集②　話し合いがはぐくむ　ひと・まちのミライ**

地域を良くしようと取り組む人たちと、市が進めるまちづくりを特集します。

　わたしたちが暮らす「地域」や「まち」が今後どうなるか、どうあってほしいか、皆さんは考えたことがありますか。「地域が元気に存続してほしい」「明るいまちがいい」とは、誰もが感じることです。

　「より良い地域・まち」とひと口に言っても、たくさんの意味を含み、人によってとらえ方や求める形は異なります。例えば、地域のお祭りや季節の行事が継続していたり、家や道路の周りが清潔に保たれていたり、道ゆく人とあいさつができたり。そんな些細なことが、暮らしの豊かさにつながり、地域やまちの活気にさえ、なり得るのではないでしょうか。

　市内の地域は、商業施設が集まる地域、温泉街がある地域、田園地帯が広がる地域、マガンや野鳥に愛される地域…と、さまざまに気候や文化が異なり、特色があります。また、人口減少や高齢化、担い手不足などに悩む地域も数多くあります。

　これらの地域それぞれが特色を生かし、時代や環境の変化とともに、存続や在り方を話し合い、実現していくことを「まちづくり」といいます。

　市では、市民と行政が互いに知恵や情報を出し合い、共に考え、話し合いながら歩む「協働のまちづくり」を進めてきました。

　話し合いは、一方的に説明したり、受けたりするものではありません。地域の課題を発見し合い、互いに気づき、話し合いに参加する一人ひとりが主体的に意見を述べ合います。そうすることで、「結果」や「答え」とともに、「共有」や「納得」を実感できるのです。

　いつしか、話し合いの過程が人をはぐくみ、まちをつくる。話し合いの文化を根付かせていくことが、求められる協働のまちづくりです。

　話し合いによる協働のまちづくりが進んでいる実例が、皆さんの身の周りにもたくさんあります。さらなるまちづくりへの支援を行うため、市は2つの交付金（大崎市地域自治組織活性事業交付金）を平成19年から導入しています。

　交付金は「チャレンジ事業交付金」と「ステップアップ事業交付金」の2種類あり、どちらも地域の特性や資源を生かした、持続性を高めるまちづくりに活用できます。

　2つの交付金を使ったまちづくりの実例を紹介します。

**ステップアップ事業交付金**

ヒアリング形式で審査が行われ、上限額は20万円です。

審査では、審査員と申請者との話し合いが行われ、課題解決に向けたより良い方策を導き出します。

チャレンジ事業交付金に比べ、比較的取り組みやすくなっています。

**チャレンジ事業交付金**

プレゼンテーション形式で審査され、上限額は100万円です。

審査では、住民相互の合意形成や自主財源の確保など、地域自治組織の経営力や組織力の高まり、申請に至るまでの過程が重視されます。

**実例紹介　仕掛け人インタビュー**

**「ライフスタイルに合わせた無理のない地域づくりへ」**

**古川東部コミュニティ推進協議会　李埣西二行政区長 早坂 利夫さん**

　古川東部コミュニティ推進協議会では、地域住民の健康増進と、地域のパトロールを目的に、ステップアップ事業交付金を活用した取り組みを行っています。

　「自分の身を（健康は自分で）守りたい」という気持ちと「子どもたちを見守りたい」という意味を込め、名付けて「みまもりたい」です。地域内で、ウォーキングやランニングに親しむ人に声を掛け、運動啓発のベストを配布しています。

　この取り組みの開始にあたって重要視したのは「参加者に無理なく続けてもらうこと」です。理解を押し付けて、義務感や嫌悪感が増し、せっかくの運動が途絶えてしまっては意味をなしません。

　犬の散歩でも近所を出歩くときでも、好きな時にベストを着用してもらうことで、まずは自身の健康増進に役立ててもらい、そして地域の安全へつなげていきたいと思っています。

　また、今回の交付金申請では、まちづくりへの新たな気づきもありました。

　ステップアップ事業交付金の審査は、ヒアリング形式で行われます。その受け答えに自信を持てずにいることを、何気なく地域の40代の方に相談したとき、「わかった、わたしが行きます」と、思わぬ答えが返ってきたことがありました。仕事や子育てで忙しい合間をぬって、まちづくりに協力してくれる人がいるのか、と胸が熱くなりました。

　後継者や担い手不足に悩む地域も数多いと思いますが、あきらめず、こちらから声をかけてみると、分かってくれる人は必ずいます。たくさん種をまいて、「まちづくりの芽」を見落とさずにいたいものです。

**活動概要：**平成30年9月から、地域住民の健康増進と地域の安全を見守る「みまもりたい（隊）」運動を開始。仲間づくりや孤立防止、地域のコミュニケーションへと穏やかにつなげる、「無理のない地域づくり」を目指す。

**写真：** 通学時間にあわせた犬の散歩で、「みまもりた　 い」ベストを着用する地域住民

**実例紹介　緒絶地区協議会　緒絶地区地域流コミュニティ基盤整備プロジェクト**

行政区長や町内会長などが中心のまちづくりから、新たな人材が参画し、将来、地域をけん引する人材をはぐくむ環境づくりに取り組む。

地域住民を講師に迎え、住民の交流の場を目指した「にこにこ学園」を平成29年度から実施、学園形式の協議会活動を展開。おだえ・にこにこ学園実行委員会を設立し、企画と実践、ワークショップの開催、各種まちづくり団体との意見交換会などを行う。地域の声と共に、地域活動への参加と緒絶地区協議会の機能・役割を創造している。

**写真：** 平成30年第2回目の交付金審査会。審査は公開で　 行われます

**実例紹介　仕掛け人インタビュー**

**「地域経済の活性化のヒントを探る　型にはまらない話し合い」**

**鳴子まちづくり協議会　会長　中鉢 幸一さん**

　全国的な課題となっている人口減少の進展は、やむを得ないと思う反面、その進展をある程度緩やかにしたいと考えています。

　鳴子まちづくり協議会では、地域経済の活性化にヒントを得るため、昨年11月、全国各地のまちづくりを取り上げたドキュメンタリー映画「おだやかな革命」を上映しました。

　映画は、過疎化が急速に進んだ地域で、集落が結集して地域資源を生かすことに奮闘し、真の豊かさを求める内容です。

　鑑賞後、参加者からは「温泉熱を利用した農業や園芸をしたい」、「自然を有効活用した新たな経済活動を探りたい」などの声が聞こえ、まちづくりへの関心が高まるきっかけとなりました。

　成果はすぐに表れています。上映会後、まちづくりに関心を持つ20代から50代の数人が集まり、継続的なまちづくりを目指したサークル活動が始まりました。現在は、鳴子についてじっくり話し合い、アイデアを出し合う段階で、これからが楽しみです。

　まちづくり協議会は、若い人たちが活動しやすい環境を作り、従来のような型にはまらず、やる気を支えるように見守っています。

　鳴子温泉地域には、豊富な自然や人材、エネルギー資源などがあります。やがては、さまざまな産業に波及をさせて、利益を地域内で循環・還元し、地域に暮らす人、訪れる人を元気にしたいです。

　課題を感じ、何とかしたいと思っている人は必ずいます。きっかけが大事で、次第に共感してくれる人は出てくるはずです。一人ひとりが地元に愛着を持って生きられるまちづくりを進めていきたいです。

**活動概要：**地域の新たな取り組みのきっかけとするため、映画上映会を開催。

地域の若者と共に話し合い、発想を広げる。たくさんの観光客でにぎわう鳴子温泉街を思い描く。

**写真：**鳴子温泉地域のまちづくりを話し合うサークルメンバーは、職業や世代、出身地もさまざま。アイデアに富んでいます。

**実例紹介　田尻まちづくり協議会　第2回田尻マスター検定事業**

地域の宝を再発見し、魅力を発信する「田尻マスター検定事業」を平成29年度から実施。

平成29年度は、田尻地域の全世帯や小学校高学年、田尻地域の中学生に試験用紙を配布したが、解答は3.8パーセントと低く、十分な成果を得られず苦戦。

PR不足などの反省を経て、平成30年度に問題を見直し、田尻マスター検定 初級に479人が参加。さらに、そのうち合格者69人を対象にした中級コースの検定を実施。将来的には、達人コースの検定を実施し、ボランティアガイドの養成を目指す。

**挑戦してみよう！田尻マスター検定**

**試験問題を一部紹介**

　今では、全国的に普及しているパークゴルフですが、本州で初めて、パークゴルフ場を加護坊山に建設した旧田尻町の町長さんは、次のどなたでしょうか。

1 堀江 敏正　氏　2 山村 健吾　氏　3 峯浦 耘蔵　氏　4 佐々木 敬一　氏

※答えは9ページに掲載しています。

**2回の事業交付金を活用して　幅広い分野のまちづくりへ**

　ステップアップ事業交付金とチャレンジ事業交付金は、年度内に1団体につき2回まで申請が可能です。鹿島台まちづくり協議会と松山まちづくり協議会では、4つのまちづくりの取り組みを申請し、創意工夫したまちづくりが進められています。

**写真：**鹿島台ビアガーデンには、会場全体が夏らしさを感じさせるお　 しゃれな装飾で彩られ、地域の老若男女が集いました。

**松山地域**

**松山まちづくり協議会　第10回フランク永井歌コンクール記念事業**

　「フランク永井 歌コンクール」が平成30年に10回目の節目を迎えたことを記念して、これまでの優勝者10人によるグランドチャンピオン大会を開催。

**松山まちづくり協議会教育文化部会　地域歴史伝承事業「昔話の紙芝居をつくる」**

　地域に伝わる昔話を伝承している「まつやま語りの会」は、松山地域で出前講座に取り組む。

　昔話を心にとどめてもらうため、松山高等学校の生徒に絵を描いてもらい、地域一体で紙芝居を製作。拡声装置を準備し、地域の昔話を印象深く伝える。

**鹿島台地域**

**鹿島台まちづくり協議会活力ある産業委員会　「知って！来て！留まって！」プロジェクト**

　7・8月に、JR鹿島台駅西口 駅前交流広場でビアガーデンを開催。会場全体はちょうちんを飾り、装備品などを購入することで、多くの出店につなげる。予想を大幅に上回る800人が来場。

**鹿島台まちづくり協議会コミュニティ活動委員会**

**地元出身 おおさき宝大使の紹介、地場産品を使用したフランス料理の紹介**

　地域出身の「おおさき宝大使」のフランス料理家 中村 善二さんを招き、一流のフランス料理を学ぶ講座を開催。

**地域への関心がミライをつくる　話し合う協働のまちづくり**

　「昔、地域のお祭りに家族で参加したな…」「昔は、この通りも大勢の人でにぎわっていたな」。昔は…、昔は…。

　子どもの頃、何気なく参加した行事や商店街での買い物を、ふと、思い出すことはありませんか。「昔は…」にも、地域やまちを盛り上げようと力を注いだ人たちがいて、参加する人がいて、「まちづくり」がありました。

　誰かのちょっとした記憶に残ること。それが、人の関心を呼び、地域の未来を築きます。

　未来を担う子どもたちに、地域での思い出をつくる機会が無くなったとき、まちの未来が危ぶまれるかもしれません。まちづくりへの関心が薄まることは、何より恐れなくてはならないことです。

　暮らしのニーズは、急速な少子高齢化とライフスタイルの多様化で、めまぐるしく変化しています。地域課題も多様化する中、行政の支援は、危機的財政状況と地方分権が進み、今後、「行政だけでは対応できない課題」の増加が見込まれます。

　まちづくりの継続には、「地域を一番よく知る住民が地域をつくる」意識が重要です。

　未来のまちづくりを担う子どもたちに、協働のまちづくりの大切さを伝え、将来にわたって引き継がれるよう、地域全体で取り組んでいきましょう。

　今回紹介したステップアップ事業交付金、チャレンジ事業交付金、まちづくりに関することは、市民協働推進部まちづくり推進課（23-5069）までお問い合わせください。

※8ページの答えは 3 峯浦耘蔵 氏です。